

令和7年度
秋田大学大学院医学系研究科
保健学専攻（博士後期課程）

学生募集要項

（一般入試・社会人特別入試）

【第2次募集】

出願資格審査：令和6年10月28日（月）～10月30日（水）

出願期間：令和6年11月11日（月）～11月13日（水）

入学試験日：令和6年12月14日（土）

秋 田 大 学

理念・目的

理念

豊かな教養に支えられた人間性、学問の進歩に対応しうる柔軟な適応能力と課題探求・問題解決能力を養い、医学・健康科学に対する十分な理解と確かな医療技術のもとに、創造性に富む研究によって保健学の発展に貢献できる研究者、葛藤をもつ学習者に共感し援助できる教育者、高度な知識と技術と倫理性を備えて実践の場で自立して研究活動ができ、人々の健康と福祉に貢献できる国際的視野を備えた高度専門職者を育成する。

目的

修士課程で修得した保健学に関する知識・技術・研究基礎能力を深化させて、創造性に富む研究を行い保健学の領域で学問的基盤の確立と発展を担う研究者、保健医療学系大学や大学院で学習者の葛藤に共感し効果的に援助できる教育者、実践の場で自立した研究活動ができ、かつ優れたケア、指導、管理ができる高度専門職者を育成することを目的とする。特に、少子・高齢化に係る諸課題を総合的に探求・解決し、地域再生への貢献ができる人材を育成する。

アドミッション・ポリシー

◆求める人材像

1. 保健学、特に看護学とリハビリテーション科学の領域で創造性に富む研究によって学問的基盤の確立と発展を担う研究者となる意欲のある人
2. 保健学に関する幅広い知識や専門領域における深い知識と優れた研究能力を有し、保健医療学系大学や大学院において学習者の葛藤に共感し効果的に援助できる教育者となる意欲のある人
3. 修士課程で培われた高度な専門的能力をさらに高め、実践の場において、自立した研究活動ができ、かつ優れたケア、指導、管理ができる高度専門職者を目指し、少子・高齢化に係る諸課題を総合的に探求・解決し、地域再生への貢献に意欲のある人

◆入学選抜の基本方針

《一般入試》

専門領域における深い知識と優れた研究能力を有し、人々の健康と福祉に貢献する意識の高い人を求めます。同時に国際的な視野を持ち、創造性に富んだ研究に取り組む意欲のある人を求めます。

そのため、入学試験において、学力検査（英語および小論文）で「読解力・判断力・表現力・論理的思考力、幅広い知識、創造力」を評価し、専門科目（口頭試問含む）および面接を課して「プレゼンテーション力」、「課題探求能力、問題解決のための意欲および意思伝達能力」を総合的に評価します。

《社会人特別入試》

専門領域における深い知識と優れた研究能力ならびに豊かな経験を有し、人々の健康と福祉に貢献する意識の高い人を求めます。同時に国際的な視野を持ち、創造性に富んだ研究に取り組む意欲のある人を求めます。

そのため、入学試験において、学力検査（英語および小論文）で「読解力・判断力・表現力・論理的思考力、幅広い知識、創造力」を評価し、面接を課して「高度な専門知識、課題探求能力、問題解決のための意欲および意思伝達能力」を総合的に評価します。

カリキュラム・ポリシー

これまでに修得した保健学に関する知識・技術・研究基礎能力を深化させ、より幅広い知識と深い洞察力、高度な論理的思考を有し、創造性に富む優れた研究活動ができる高度専門職者を育成するための教育課程を編成する。

少子高齢化問題に焦点を当て、共通科目では、保健政策の現状と課題への深い理解と、高度な情報処理能力を養成する。生涯発達・健康支援看護学分野と生活機能・健康行動支援分野では、次世代を健やかに育てるための基盤としての女性と子供への支援、または高齢者の身体・心理・社会的特性を考慮した健康支援に繋がる、高度な学術レベルの研究を実現するための研究指導を行う。

ディプロマ・ポリシー

- ・向上心と協調性、そして地域住民の健康や福祉に寄与したいとする意志と豊かな人間性を身につけている。
- ・科学の進歩及び社会の医療ニーズの変化に対応し、国際的視点を持ちつつ生涯を通して自らを高めることができる。
- ・患者・障がい者及び住民の健康の維持・増進と健康障がいからの回復に寄与するために医療人として責任をもって行動をとることができる。
- ・患者・障がい者・家族と保健・医療・福祉チームのメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員としての役割を果たすことができる。

目 次

1. 募集人員	1
2. 入試区分	1
3. 出願資格	1
4. 出願手続	1
5. 選抜方法	3
6. 合格者の発表	3
7. 入学手続の概要	4
8. 履修方法の特例について	4
9. 長期履修について	4
10. 出願資格審査	5
11. 配慮を必要とする入学志願者の事前相談	6
12. 出願に関する問い合わせ先	6
13. その他	6
14. 保健学専攻（博士後期課程）の教育研究内容等	7
試験場案内図	12

〈綴じ込み書類等〉

- ・ 入学志願票（裏面：履歴書）
- ・ 受験票・写真票
- ・ 研究計画書
- ・ 研究業績等調書
- ・ 払込取扱票・振替払込請求書兼受領証・振替払込受付証明書（検定料振替用）
- ・ 検定料振替払込受付証明書貼付台紙
- ・ 出願資格認定申請書（裏面：履歴書）
- ・ あて名票
- ・ 受験票送付用封筒
- ・ 出願書類送付用封筒

【入学志願者の個人情報保護について】

本研究科では、提出された出願書類より志願者の個人情報を取得し、また、入学試験の実施により受験者の個人情報を取得しますが、これらの個人情報は、以下の目的で利用します。

1. 入学者選抜に関する業務（統計処理などの付随業務を含みます。）
2. 入学手続完了者にあつては、入学者データとして、入学後の修学指導業務、学生支援業務及び授業料徴収業務

令和7年度入学試験日程

年	月	日	曜	事項
6	10	28	月	出願資格認定申請期間 (出願資格※⑤または出願資格※⑥により, 出願しようとする者が対象)
		30	水	
	11	5	火	出願資格審査結果通知
		7	木	
		11	月	出願期間 (原則として郵送) <ul style="list-style-type: none"> ・社会人特別入試を希望する場合は, 入学願書の所定欄を○で囲んでください。 ・社会人特別入試希望者に対する審査結果通知(受験票送付時)
	13	水		
	12	14	土	入学試験 (試験場: 大学院医学系研究科・医学部保健学科棟・医学系研究棟)
1	17	金	合格者発表 (15時予定)	
7	2	10	月	入学手続期間 (土・日曜を除く。詳細については, 合格通知書とともに送付します。)
		20	木	

1. 募集人員

専攻	分野	学位	募集人員	備考
保健学	生涯発達・健康支援看護学	博士（保健学）	1名	募集人員には社会人特別入試を含みます。
	生活機能・健康行動支援科学			

注) 本研究科では、入学後の履修方法・研究テーマなどについて、事前相談を求めています。各分野の担当教員は、「14-3 各分野の研究指導担当教員と研究テーマ」に記載のとおりですので、出願前に必ず事前相談をしてください。

2. 入試区分

(1) 「一般入試」

(2) 「社会人特別入試」

社会人特別入試では、「専門科目」の試験を免除し「業績等」の評価を行います。応募できる者は、志望する分野に係る相当数の業績を有する者です。

3. 出願資格

次のいずれかに該当する者

なお、出願資格の判断が難しい場合は、必ず事前に問い合わせること。

- ① 修士の学位又は専門職学位を有する者及び令和7年3月までに取得見込みの者
- ② 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和7年3月までに授与される見込みの者
- ③ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和7年3月までに授与される見込みの者
- ④ 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位を授与された者及び令和7年3月までに授与される見込みの者

※⑤ 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）

ア. 大学を卒業し、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、本研究科において当該研究の成果等により修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

イ. 外国において学校教育における16年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、本研究科において当該研究の成果等により修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

※⑥ 本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、令和7年3月31日までに24歳に達する者

注) 出願資格※⑤又は出願資格※⑥により出願しようとする者は、個別の出願資格審査が必要ですので、5頁「10. 出願資格審査」により手続をしてください。

(申請期限：10月30日（水）「17:00必着」)

4. 出願手続

出願書類は一括し、本要項に添付されている封筒に入れて、原則として郵送してください。

(1) 出願期間

令和6年11月11日（月）～11月13日（水）「17:00必着」

(2) 提出先

秋田大学大学院医学系研究科・医学部学務課保健学科担当
〒010-8543 秋田市本道一丁目1-1

(3) 出願書類

<全志願者が提出するもの>

提出書類等	摘 要
入学志願票	本要項所定の用紙（裏面：履歴書）に所要事項を記入したもの
受験票・写真票	本要項所定用紙に所要事項を記入し、写真票に写真（出願前3か月以内に撮影した縦4cm×横3cm、正面、上半身、無帽のもの）を貼ったもの
修了（見込）証明書	最終出身学校長が作成したもの ※ 本学医学部出身者は提出不要です。
成績証明書	最終出身学校長が作成したもの ※ 本学医学部出身者は提出不要です。
研究計画書	本要項所定の用紙に所要事項を記入したもの
修士の学位論文等	ア. 修士の学位を有する者は、修士論文の写し1部及び論文の要旨1部。 要旨についてはA4判用紙に2,000字程度（様式任意）にまとめたもの イ. 上記ア以外の者は研究経過報告書（A4判用紙に2,000字程度（様式任意））にまとめたもの
研究業績等調書	本要項所定の用紙に所要事項を記入したもの
検定料 （振替払込受付証明書）	検定料は30,000円です。本学所定の払込取扱票に、志願者本人の氏名その他所要事項を記入し、原則として令和6年11月1日（金）以降出願前までに、ゆうちょ銀行又は郵便局の窓口で振り込んでください。（振込手数料は負担願います。）※ATMは使用しないでください。 振込の際に受領する「振替払込受付証明書」を台紙に貼ってください。台紙には志願者本人の氏名を記入してください。出願手続き完了後、既納の検定料は、いかなる理由があっても返還しません。ただし、検定料の払込後に出願しなかった場合は返還しますので、原則として令和6年11月14日（木）～11月20日（水）までの間に秋田大学経理・調達課出納担当（018-889-2234）へ申し出願います。 なお、令和7年3月に本学大学院修士課程（博士前期課程）を修了し、引き続き本課程に進学を希望する者は不要です。
受験票送付用封筒	本要項所定の封筒に、郵便番号、住所、氏名を明記し410円分の切手を貼ったもの
あて名票	合格通知等の連絡を受けるあて先を記入してください。

<該当する者のみが提出するもの>

学位授与証明書	既に学位を授与されている者は、学位授与機構が発行したもの。 令和7年3月までに学位を授与される見込みの者は、入学志願票の「取得見込」を○で囲んでください。（入学手続きの際に「学位授与証明書」の提出が必要です。）
在留資格が明記された住民票の写し	日本国内に在住している外国人は、市区町村長の発行したもの

- 注 1) 提出書類は一括して所定の封筒に入れて提出してください。
 2) 出願書類に不備がある場合は、受理しません。
 3) 出願資格認定申請を行った者は、その際に提出した書類（修了（見込）証明書、成績証明書、研究業績等調書）を再提出する必要はありません。

- 4) 改姓により、各証明書の「姓」が異なる場合は、改姓を証明する書類を添付してください。
- 5) 出願書類に虚偽があった場合は、入学後でも入学許可を取り消すことがあります。

5. 選抜方法

「一般入試」

入学者の選抜は、学力検査（専門科目、英語、小論文）及び面接の結果と提出書類の内容（学業成績）を総合して行います。

「社会人特別入試」

入学者の選抜は、学力検査（英語、小論文）及び面接の結果と研究業績等調書、その他の提出書類の内容を総合して行います。

(1) 学力検査科目等

【英 語】

保健医療全般に関する英文情報の理解力を問います。

【小論文】

志望する分野に関する課題について、知識、考え方、研究方法等についての論述を評価します。

【（一般入試）専門科目及び面接】

修士論文又はそれに相当する学術論文の内容、志望する研究分野に関する実績等についてプレゼンテーションを課し、面接（口頭試問を含む）を行います。

【（社会人特別入試）面接】

提出された「研究計画書」等に基づいて、課題探求能力、問題解決のための意欲及び意思伝達能力を全般的に評価します。

(2) 入学試験の日時及び試験場

試 験 日	科目等	試験時間	試 験 場
令和6年12月14日（土）	試験概要説明	8:50～9:00	秋田大学大学院医学系研究科・ 医学部保健学科棟・医学系研究棟 (12頁「試験場案内図」のとおり)
	【英 語】	9:00～10:30	
	【小論文】	11:00～12:00	
	(一般入試) 【専門科目 ・面接】	13:00～	
	(社会人特別入試) 【面 接】		

6. 合格者の発表

令和7年1月17日（金）15:00（予定）

- ・合格者に合格通知書を郵送するとともに大学院医学系研究科・医学部ホームページ（<http://www.med.akita-u.ac.jp>）に合格者の受験番号を掲載します。
- ・電話等による問い合わせには一切応じません。

7. 入学手続の概要

入学手続等の概要は次のとおりです。詳細については、合格者に対して別途お知らせします。

(1) 入学手続期間

令和7年2月10日（月）～ 2月20日（木）（土・日曜を除く）

(2) 納付金

「入学料」 282,000 円（予定額）

◎令和7年3月に本学大学院の修士課程（博士前期課程）を修了し、引き続き本研究科博士後期課程に進学する者は必要ありません。

「授業料」 前期分 267,900 円 [年額 535,800円]（予定額）

◎入学時及び在学中に授業料の改定が行われた場合は、改定時から新授業料を適用します。

(3) 入学料の免除及び徴収猶予について

経済的理由により入学料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合、入学前1年以内に、学資負担者の死亡又は本人もしくは学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより、入学料の納付が著しく困難である場合については、本人の願い出により選考の上、入学料の全額又は半額を免除もしくは徴収を猶予する制度があります。

(4) 授業料の免除等について

経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合、学資負担者の死亡又は本人もしくは学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより、授業料の納付が著しく困難と認められる場合については、本人の願い出により選考の上、授業料の全額、半額又は3分の1を免除する制度があります。

8. 履修方法の特例について

この制度は、職業を有する者が在職のまま大学院で学べるよう、夜間・休日等に授業を行うものです。

この特例（夜間・休日等の授業）と、次の長期履修との組み合わせも可能ですので、希望者は、志望領域・分野の担当教員と十分な事前相談をして、入学後の履修に支障のないようにしてください。

9. 長期履修について

この制度は、職業を有している等の理由により、修業年限（3年）を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修するものです。

(1) 履修期間

履修期間は、本人の希望により4年もしくは5年又は6年（最長）となります。

(2) 授業料

在学中に納付する授業料の総額は、通常の授業料の3年分となります。従って、履修期間を6年として許可された場合、通常の授業料の2分の1の額を6年間にわたって納付することとなります。

(3) 申請方法

長期履修を希望する場合は、入学志願票の所定欄を○で囲んでください。合格通知書送付時に、申請手続方法について通知します。

なお、履修期間は、就学事情の変動により変更することができます。また、入学後に申請する場合は、翌年度からの適用となります。

10. 出願資格審査

出願資格※⑤又は出願資格※⑥により出願しようとする場合は、事前に出願資格の認定を得る必要があります。

出願資格認定申請の方法は、次のとおりです。

(1) 提出書類

○出願資格※⑤による認定を希望する場合

出願資格認定申請書	本要項所定の用紙（裏面：履歴書）に所要事項を記入したもの
卒業証明書	出身大学（学部）長が作成したもの（様式任意）
成績証明書	出身大学（学部）長が作成し、厳封したもの（様式任意）
研究期間証明書	在籍機関の長が作成したもの（様式任意）
研究業績等調書	本要項所定の用紙に所要事項を記入したもの
審査結果通知用返信封筒	定形封筒に本人の住所・氏名を記入し110円分の切手を貼ったもの

○出願資格※⑥による認定を希望する場合

本研究科の出願資格の認定基準は、次のとおりとします。

大学、短期大学、高等専門学校、専修学校専門課程又は各種学校を修了し、又は外国において学校教育における14年の課程を修了し、医療・保健・福祉施設、教育研究機関、官公庁、企業等において令和7年3月末までに4年以上の実務経験（大学を卒業した者は2年以上、通算可）があり学术论文、著書、学会発表等により本研究科修士課程修了者と同等以上の学力があると認められる者であること。

出願資格認定申請書	本要項所定の用紙（裏面：履歴書）に所要事項を記入したもの
最終学校の卒業証明書	出身学校長が作成したもの
最終学校の成績証明書	出身学校長が作成し、厳封したもの
最終学校の規程等	教育課程及び卒業要件が記載されているもの
在職期間証明書	在職期間及び職種について、勤務先の所属長が作成したもの（様式任意）
研究業績等調書	本要項所定の用紙に研究業績及び職務における実績等を記入したもの
審査結果通知用返信封筒	定形封筒に本人の住所・氏名を記入し110円分の切手を貼ったもの

(2) 申請期間

令和6年10月28日（月）～10月30日（水）「17:00必着」

◎郵送の場合は速達簡易書留扱いとし、封筒の表に「保健学専攻資格審査書類在中」と朱書きしてください。

(3) 提出先

〒010-8543 秋田市本道一丁目1-1

秋田大学大学院医学系研究科・医学部学務課保健学科担当

(4) 審査結果の通知

出願資格認定審査の結果は、令和6年11月7日（水）までに通知します。

11. 配慮を必要とする入学志願者の事前相談

障害等のある者等, 受験上及び修学上の配慮を必要とする可能性がある入学志願者(下表参照)は, 出願に先立ち, 下記事項Ⅰ～Ⅴを記入した文書(様式任意)に医師の診断書を添えて, 大学院医学系研究科・医学部学務課保健学科担当に相談してください。

なお, 障害等の程度によっては, 事前の準備が必要となる場合がありますので, できるだけ早めに相談してください。また, 出願後に不慮の事故等により, 受験上の配慮が必要となった場合には, 速やかに連絡してください。

日常生活において, ごく普通に使用している補聴器, 松葉杖, 車椅子等を使用して受験する場合も相談願います。

- Ⅰ 志望専攻, 氏名, 年齢, 連絡先住所, 電話番号
- Ⅱ 障害等の種類及び程度
- Ⅲ 受験上及び修学上必要とする特別な配慮の内容
- Ⅳ 出身学校でとられていた特別措置
- Ⅴ 日常生活の状況

区分	障害等の程度
視覚障害	両眼の視力がおおむね0.3未満のものまたは視力以外の視機能障害が高度のもののうち, 拡大鏡等の使用によっても通常の文字, 図形等の視覚による認識が不可能または著しく困難な程度のもの
聴覚障害	両耳の聴力レベルがおおむね60デシベル以上のもので, 補聴器等の使用によっても通常の話し声を解することが不可能または著しく困難な程度のもの
肢体不自由	1 肢体不自由の状態が補装具の使用によっても歩行, 筆記等日常生活における基本的な動作が不可能または困難な程度のもの 2 肢体不自由の状態が前号の掲げる程度に達しないものうち, 常時の医学的観察指導を必要とする程度のもの
病弱	1 慢性の呼吸器疾患, 腎臓疾患及び神経疾患, 悪性新生物その他の疾患の状態が継続して医療または生活規制を必要とする程度のもの 2 身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とするもの
その他	上記以外で, 受験上及び修学上の配慮を必要とするもの

注) 学校教育法施行令第22条の3の規定に準拠しています。

12. 出願に関する問い合わせ先

秋田大学大学院医学系研究科・医学部学務課保健学科担当
電話 018-884-6543 FAX 018-836-9845

13. その他

本学では, 外国為替及び外国貿易法に基づき, 秋田大学安全保障輸出管理規程を定め, 外国人留学生等の受入れに際し審査を実施しています。規制事項に該当する場合は, 希望する教育が受けられない場合や研究テーマに制約がかかる場合があります。

14. 保健学専攻（博士後期課程）の教育研究内容等

14-1. 教育研究の内容

教育課程の特色

博士後期課程では、既存の修士課程の看護学領域及びリハビリテーション科学領域という2領域の教育・研究を、出生率が全国で47位かつ高齢化率が第1位という指標で示される少子高齢化に焦点をあてて、「生涯発達・健康支援看護学分野」と「生活機能・健康行動支援科学分野」に集約した。教育課程は、共通科目と専門科目からなる。

(1) 共通科目の考え方及び特色

教育者・研究者・高度専門職者において優れた指導者となるためには、大局的な視点に立ち、多職種との連携と協働を実現させる能力が必要である。さらに、高度に発展した医療技術や研究方法、分析方法を十分に理解し活用する能力も必要とされる。このため、次の3つの共通科目を設定した。

1) 保健政策・医療コミュニケーション論

本科目では、日本の保健政策の現状と今後の課題を明らかにしつつ、それを踏まえて、地域社会のニーズを見出し、社会政策学、医学、看護学、リハビリテーション科学などの多様な視点に立ち、知的資源、人的資源の有効活用とネットワーク作り、多職種との連携と協働の方法を学ぶ。

2) 保健情報解析学特講

保健学研究における情報の収集と解析には、疫学の基本的知識、解析方法について十分に理解し、活用することが必要である。本科目では、疫学の基本的概念（異常、診断、リスク、予後、治療、予防、疫学研究における偶然性、症例研究、因果関係の推定）のほか、疫学調査法及び医学統計学的処理法についての一般的手法を概説する。

また、疫学領域の論文を題材に、情報の解析方法を具体的に学ぶ。

3) 生命情報解析学特講

本科目では、多様に分化した生命情報解析の理論や技術を修得するために、基礎的な定量・定性的な手法及びその応用、生理学を基礎とした生体信号の測定及び解析する手法、形態学的な手法と解析方法、さらに生化学及び栄養学を基礎とした分析など基礎医学の各分野における研究方法を学ぶ。

(2) 専門科目の考え方及び特色

1) 生涯発達・健康支援看護学分野

「女性・小児発達支援科学特講」

秋田県で特に問題となっている少子化について、次世代を健やかに育てるための基盤となる女性と子どもの健康支援に焦点をあてる。子どもの健康支援として、子どもを対象にした健康教育、慢性疾患をもつ子どもの療養行動支援を取り上げる。また、女性の生涯を通じた健康上の課題から、生殖医療の現状と課題や「夜泣き」などの育児の実質的な問題について、育児に悩む母親への支援方法、妊婦の「口腔衛生」を中心とする支援について取り上げる。また、働く女性の健康管理に関しては、看護職員の業務上のハザードによる健康影響を防ぐために、交替制勤務や有害薬剤等の取り扱いについて探求する。さらに、女性と子どもに対する暴力、児童虐待や夫婦や恋人など親しい間柄にあるパートナーから振るわれる暴力（DV）に対する支援体制づくりについて、看護職者としての役割を探求する。

「地域・生活支援科学特講」

秋田県の高齢化率1位であることに関連する健康問題、すなわち健康寿命延伸・認知症対策・がん対策に焦点を当てる。健康寿命の延伸を目指しつつ人口減少、多死社会に向かうことを踏まえいずれのテーマも地域包括ケアシステムの構築や在宅医療・ケア、看取りの医療・ケアに至るまで探求を深める。

「生涯発達・健康支援看護学演習」

女性・小児の健康支援，高齢者の健康寿命延伸・認知症対策，がん対策に関連する各種の研究手法を中心に演習を行う。

「生涯発達・健康支援看護学特別研究」

生涯発達段階における健康支援に関する研究課題に対して，他分野との連携を踏まえた多角的な視点を持ち，かつ自立した研究活動ができるように博士論文の作成を指導する。

2) 生活機能・健康行動支援科学分野

「生活機能・健康行動支援科学特講」

高齢障害者の呼吸循環器系生活機能及び高齢者を健康な行動へと動機づけるコミュニケーション技法について論究する。具体的には，高齢障害者・要介護高齢者の介護予防プログラム開発や高齢者が抱える身体・心理・社会的特性を考慮した対応について検証する。そして身体機能や認知機能の維持・向上のための健康情報を伝えるだけでは不十分な高齢者を動機づけて健康に関するより良い行動へと変容させる有効な方法であるコミュニケーション技法を探求する。例えば高齢者の健康を増進するための活動の一つに運動があるが，運動についての動機づけを高めて実際に運動を日常生活に組み込むための運動遂行の心理的要因に焦点を当てたコミュニケーション技法について検討する。呼吸循環器系生活機能については包括的呼吸リハビリテーションを構成する3本の柱のうち，運動療法と栄養指導に重点をおき，教育を進めていく。運動療法では，近年注目されている筋力トレーニングに関して，慢性の呼吸器疾患患者に対する具体的方法や効果及び呼吸循環器に及ぼす影響について，多角的な研究を行っていく。また，運動療法を処方するために必要な運動強度の設定に関して，簡単に行える運動負荷試験として認められている6分間歩行試験やシャトル歩行試験などの平地歩行試験の呼吸循環反応を研究することで，慢性の呼吸器疾患患者が在宅でも継続できるような，効果的な運動強度について探究する。栄養指導に関しては，欧米人の慢性呼吸器疾患患者は肥満傾向が多いのに対して，日本人では多くがやせていることから，日本人に対する有効な栄養指導とその効果について，代謝エネルギーや栄養素などの視点から論究する。さらに，小児や精神障害者等を対象にしたリハビリテーションやコミュニケーション技法などの健康行動支援，変性疾患やスポーツ障害などの運動機能障害に対する支援について探求する。

「生活機能・健康行動支援科学演習 A」

高齢者の呼吸機能に関する課題，特に慢性閉塞性肺疾患（COPD）の医学的・社会的リハビリテーションについて演習を行う。

「生活機能・健康行動支援科学演習 B」

高齢者の生活機能支援を行うために必要な作業活動，コミュニケーション促進，そして感覚・運動・精神機能について演習を行う。

「生活機能・健康行動支援科学特別研究」

生活機能・健康行動支援科学分野に関して，将来の日本が直面する高齢者の課題にも対応できる多角的な視点から研究課題を設定し，倫理的配慮に基づいた研究計画の立案，データ収集，分析をとおして自立した研究活動ができるよう博士論文の作成を指導する。

14-2. 教育課程及び履修方法

教育課程

(令和6年度の授業科目です。)

科目 区分	授業科目の名称	単 位 数	分野別履修方法				備 考	
			生涯発達・健康 支援看護学分野		生活機能・健康 行動支援分野			
			必修	選択	必修	選択		
共 通 科 目	保健政策・医療コミュニケーション論	1	1		1		自由科目、 教育学に関する科目 自由科目、 教育学に関する科目 自由科目、 教育学に関する科目 自由科目、 教育学に関する科目 自由科目、 教育学に関する科目	
	保健情報解析学特講	1		} 1		} 1		
	生命情報解析学特講	1						
	教育原理Ⅰ	1						
	教育原理Ⅱ	1						
	教育心理	2						
	教育課程・教育評価	1						
	教育方法	1						
専 門 科 目	生涯発達・健康 支援看護学分野	女性・小児発達支援科学特講	2		} 2			
		地域・生活支援科学特講	2					
		生涯発達・健康支援看護学演習	2	2				
		生涯発達・健康支援看護学特別研究	6	6				
	生活機能・健康行 動支援科学分野	生活機能・健康行動支援科学特講	2			2		} 2
		生活機能・健康行動支援科学演習A	2					
		生活機能・健康行動支援科学演習B	2					
		生活機能・健康行動支援科学特別研究	6			6		

※ 備考欄「自由科目」は修了に必要な単位には含まない。

履修方法

授業科目は、共通科目1単位，特講2単位，演習2単位，特別研究6単位から構成される。特別研究は、各専門分野の博士論文テーマに沿った研究指導を行う（「14-3. 各分野の研究指導担当教員と研究テーマ」参照のこと）。履修方法は、次のとおりである。

1. 履修方法

必修，選択を合わせて計12単位以上を修得する。

- ・必修科目：共通科目から1単位を履修する。専門科目から指導教員の指定する各分野の特講2単位，特別研究6単位を履修する。
- ・選択科目：共通科目から1単位を履修する。指導教員の指導の下，専門科目から演習2単位を履修する。

2. 修了要件

博士後期課程に3年以上在学し，12単位以上を履修し，かつ，必要な研究指導を受けた上，大学院の行う学位論文の審査及び最終試験に合格すること。

3. 学位の授与

博士後期課程を修了した者には，本学学位規程の定めるところにより，博士（保健学）の学位を授与する。

14-3. 各分野の研究指導担当教員と研究テーマ

生涯発達・健康支援看護学分野

職名	氏名	研究テーマ
E-mail		
教授	鈴木 圭子	○高齢期の健康増進とケアに関する研究 keiko@hs.akita-u.ac.jp
E-mail		
教授	安藤 秀明	○緩和ケアに関する質的研究 ○リンパ浮腫ケアに関する研究 ○中高生に対するがん教育 andoh@gipc.akita-u.ac.jp
E-mail		
教授	吉岡 政人	○癌の診断・治療に関する研究 ○糖尿病および栄養・代謝に関する研究 ○画像解析を用いた研究 masato@gipc.akita-u.ac.jp
E-mail		
教授	眞壁 幸子	○整形看護に関する研究 ○国際看護に関する研究 ○地元創生看護学に関する研究 smaka@hs.akita-u.ac.jp
E-mail		
教授	成田 好美	○妊婦の歯科保健に関する研究 ○妊婦の出産不安に関する研究 yoshimi@hs.akita-u.ac.jp
E-mail		
准教授	佐々木 久長	○地域における自殺予防対策に関する介入的研究 ○自殺行動の分析と予防に関する研究 hisanaga@hs.akita-u.ac.jp
E-mail		
准教授	丹治 史也	○生活習慣・生活習慣と健康・パフォーマンス影響に関する研究 ○就労者の健康・メンタルヘルスに関する研究 tanji@hs.akita-u.ac.jp
E-mail		
准教授	長岡 真希子	○保健・医療・福祉の連携、情報共有と管理に関する研究 ○在宅療養支援・退院支援に関する研究 nmakiko@hs.akita-u.ac.jp
E-mail		
講師	利 緑	○慢性疾患と共に生きる人とその家族への支援に関する研究 ○エンド・オブ・ライフ・ケアに関する研究 midori@hs.akita-u.ac.jp
E-mail		

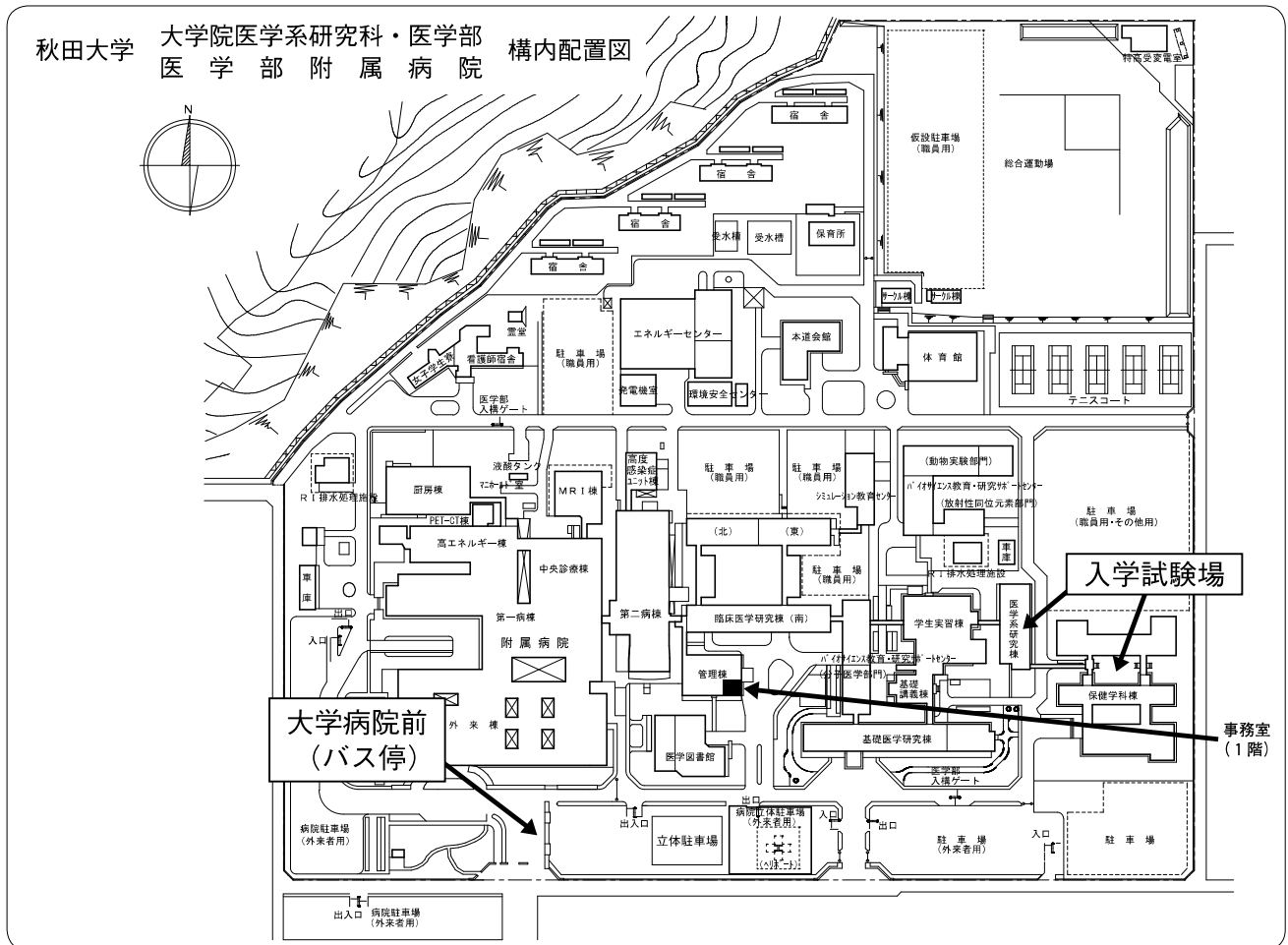
生活機能・健康行動支援科学分野

職名	氏名	研究テーマ
E-mail		
教授	吉岡 年明	○がんの浸潤や転移に関する研究 ○インテグリンががんの進展に果たす役割の研究 ○肝障害や肝再生時におけるヘレグリンの役割の研究 yoshiokt@med.akita-u.ac.jp
E-mail		
教授	佐竹 将宏	○呼吸リハビリテーションに関する研究 ○下肢装具に関する研究 ○姿勢・動作および身体活動における呼吸代謝に関する研究 satake@hs.akita-u.ac.jp
E-mail		
教授	若狭 正彦	○高齢者に対する運動介入・長期継続効果の検討 ○遠隔医療リハビリテーションシステムの開発 masaloco@hs.akita-u.ac.jp
E-mail		
教授	竹内 直行	○脳卒中後運動麻痺に対するニューロリハビリテーションに関する研究 ○脳刺激を用いた脳可塑性誘導および認知症の治療に関する研究 ○新しい運動学習法の開発に関する研究 n-take@hs.akita-u.ac.jp
E-mail		

職名	氏名	研究テーマ
	E-mail	
教授	太田 英伸	○精神障害者の睡眠覚醒リズムと認知・運動機能に関する研究 ○小児の睡眠覚醒リズムと認知・運動機能に関する研究 ○児童精神医学における治療法（認知行動療法・作業療法・薬物治療）の開発
	hideohta@med.akita-u.ac.jp	
教授	久米 裕	○ウェアラブル技術を用いた休息活動リズムに関する研究 ○地域高齢者の健康増進に関する研究
	Kume.yuu@hs.akita-u.ac.jp	
教授	本郷 道生	○骨粗鬆症に対する運動療法に関する研究 ○脊柱側弯症に関する研究 ○運動器疾患に関する生体力学研究
	mhongo@doc.med.akita-u.ac.jp	
准教授	佐々木 誠	○外部環境の視覚認知と身体運動との関係に関する研究 ○日常生活基本動作における生理的反応・運動学に関する研究
	masasaki@hs.akita-u.ac.jp	
准教授	上村 佐知子	○睡眠と精神・運動機能の関係についての研究 ○温泉が人体に及ぼす生理学的変化とその医療的な応用についての研究 ○対人援助職の精神的疲労やコミュニケーション・スキルに関する研究
	uemura@hs.akita-u.ac.jp	
准教授	浅野 朝秋	○認知症高齢者に対するICTを用いた生活支援に関する研究 ○認知症高齢者に対するデジタル認知刺激の効果検証に関する研究
	tasano@hs.akita-u.ac.jp	
准教授	富澤 涼子	○精神障害者のリハビリ支援に関する量的・質的研究 ○SNSを用いた当事者・家族支援のためのm-Health支援モデルに関する研究 ○多職種チーム連携やその中での作業療法士の役割に関する研究
	ryoko-t@hs.akita-u.ac.jp	
准教授	齊藤 明	○スポーツ理学療法（投球・着地動作）に関する研究 ○超音波を用いた運動器疾患に関する研究
	ptsaito@hs.akita-u.ac.jp	
講師	高橋 恵一	○特別支援教育と作業療法との連携に関する研究 ○重症心身障害児の福祉機器に関する研究 ○重症心身障害児の摂食嚥下障害に対する作業療法についての研究
	k-yan@hs.akita-u.ac.jp	
助教	津軽谷 恵	○高齢者の生活時間構造と心身機能・社会生活機能についての研究
	megumi@hs.akita-u.ac.jp	
助教	木元 稔	○3次元動作解析装置や慣性センサーを用いた小児の歩行に関する研究 ○AR, VR, MRを理学療法に応用するための基礎研究 ○シーティングやポジショニングに関する研究
	minoru-kimoto@hs.akita-u.ac.jp	
助教	照井 佳乃	○加速度計を用いた歩行分析や身体活動量に関する研究 ○脳卒中理学療法に関する研究 ○呼吸理学療法（呼吸機能・呼吸筋力）に関する研究
	terui@hs.akita-u.ac.jp	

- 注 1) 各自の希望研究テーマをふまえて指導希望（予定）教員に必ず事前に相談してください。
2) 指導教員の増員等により、指導担当教員と研究テーマは変わる可能性があります。

〈試験場案内図〉



○バス (秋田駅から)

秋田駅	のりば	路 線	下 車
西 口	12番	手形山経由大学病院線	大学病院前
	11番	赤沼線 太平線 松崎団地線	
東 口	2番	赤沼線	